

ACTIVITY 開発のための教育 『いのちのあみ』

人数 8人以上

用意するもの ひも(かなり長いひもが必要です。太い毛糸など。色違いがあればなおよい)やりかた

ステップ1

1. 右のようなカードを作成し、一枚ずつ配ります。(8人以上の場合はコピーで)
2. 参加者はカードを読み、自分がどのような生き物になるか考えて空欄をうめます。
3. 輪になってすわります。
4. 最初の人立ち上がって自分のカードを読みます。
5. それを聞いて自分がそのカードと関係のあるカードを持っていると思った人は立ち上がり、そのカードを持った人とひもで腰と腰をつなぎます。
6. すべての人がカードを読み上げるまで、ゲームを続けます。

ステップ2

代表の人が次のような話を一つずつ読み、この話で自分の持っているカードの生き物は生きていくのが難しいと思う人はその場にすわります。すわった人とひもでつながっている人もいっしょにすわります。

話1

「近所の工場がはき出す煙で大気がよごれ、酸性雨がふり、植物が枯れてしまいました。」

話2

「畑の作物を害虫から守るために、ある農家が強力な殺虫剤をまきました。そのせいでその地域は虫がほとんどいなくなっていました。」

話3

「ある材木会社が製紙会社に売るため、ある地域の森の木を一本のこらず切り倒してしまいました。」

さあ、話が3つとも終わったとき一人で残っている人はいますか？このゲームで気づいたことをみんなで話し合ってみましょう。



さまざまつながりを実際に目で見ることができるというのが、このアクティビティのよいところです。低学年の児童でも、非常にわかりやすく人間と自然との関わりを理解することができます。

また、生き物だけでなく、「国」や「子どもの権利条約」を使ってカードを作り、『世界の国々との関係』や『権利のつながり』を理解するためのアクティビティとして応用することもできます。

いのちのあみゲーム

わたしは人間です。わたしは動物や鳥の肉、お米などの穀物や野菜を食べます。	わたしは動物の_____です。わたしの体は大きく、草と穀物を食べます。人間はときどきわたしを食べます。
わたしは鳥の_____です。わたしは穀物や木の実、虫を食べます。人間はときどきわたしを食べます。	わたしは木の_____です。わたしは日光と土から栄養をとっています。きれいな水も必要です。虫や鳥や小さな動物はわたしのところにすみかを作ったり、わたしの実やたねを食べたりします。
わたしは動物の_____です。わたしの体は小さく、穀物やたね、くだもの、虫を食べます。大きな体の動物に食べられることもあります。死ぬと虫やバクテリアに食べられて土になります。	わたしは動物の_____です。わたしの体は大きく、小さい動物やくだものを食べます。わたしが死んでしまうと虫やバクテリアがわたしのからだを食べられて土になります。
わたしは虫の_____です。わたしは植物を食べます。わたしはときどき、鳥や小さい動物に食べられることがあります。	わたしは植物の_____です。わたしは日光と栄養たっぷりの土、きれいな水が必要です。鳥や虫、小さい動物はときどき、わたしのたねや実、またわたし自身を食べます。



やってみました このアクティビティ

広島県三原市鷺浦小学校 小田直子 教諭

全校で「基本的人権について考えよう」としている時期に、児童の間で、遊び仲間に入れようとしても入らない、また、困っている人がいるので助けようとしたら、けんかを仲裁しようとしたら「君に

は関係ないだろう」という声がかえてくるというような状況が起こった。そこで人はお互いにつながりの中で生きているということを自然界のつながりの中から発展させて考えていこうと考えた。

参加児童1-6年生 37名
全体を4つの班に分けた
ステップ1・2をやった後、班ごとに感想や気づきを話し合い、リーダーが発表した。どの班も、人間は自然のいろいろなものにつながって生きていることが分かったという発表をした。こんがらがったひもに驚いている子もいた。



児童の感想

2年 山根 俊之

「いのちのあみ」ゲームでとりとか、どうぶつとか、海とか川は、人間にかんけいがあることがわかりました。ぼくはカードにわとりを書きました。

ゲームをやってみて

子どもたちは小さな文字で印刷されたカードの字を読み、自分が誰と関係しているのか真剣に考えていた。身近な問題におきかえて考えることができたようだ。しかし、相互に関係していることが理解できたら、次に自分自身がどう問題解決に力を発揮していけばよいかを考えることが重要になる。その点については今後の学習を待つこととなった。